

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：桧山 美恵子

研究分野	研究内容のキーワード
老年看護学	高齢者の閉じこもり
学位	最終学歴
修士（看護学）	武庫川女子大学大学院看護学研究科看護学専攻

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 宝塚大学 成人看護学助教	2018年4月2019年3月	慢性期・急性期看護の実習指導を行った。慢性疾患患者の退院に向けたライフスタイルを調整する看護について、学生が資料を作ったりカンファレンスで深く考えられるように指導した。また、周手術期の看護について、学生が根拠に基づいたアセスメントを行い、患者の変化に対応できるように指導を行った。 演習では、看護過程の指導や、周手術期の看護、慢性心不全患者の事例を用いて病態の理解からNPPVの機械やマスク装着方法の実施、退院時指導のパンフレット作成を行った。 ターミナルケアの講義を担当し、グループワークや視覚教材を活用し、倫理的な態度が身につくように学びを深めた。
2. 宝塚大学 成人看護学助手	2016年9月2018年3月	慢性期看護を担当し、実習指導を行った。また、講義の補助や演習を行った。
3. 宝塚大学 老年看護学助手	2015年9月2016年8月	老年看護学の実習指導と、老人体験などの演習を行った。また、基礎看護学の実習指導を行った。
4. 堺看護専門学校 専任教員	2013年4月2015年8月	老年看護学・成人看護学・基礎看護学（バイタルサイン・食事援助技術）の講義を行い、ワークシートを作成した。 成人看護学・精神看護学・老年看護学・基礎看護学の実習要項の検討と、現場での実習指導を行った。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 宝塚大学での委員会活動	2015年5月2019年3月	国家試験対策委員：過年度生への指導を担当した。学内模擬試験の監督を担当した4年次生の国家試験対策係りの窓口となり、国家試験対策の情報提供や相談役として支援した。 キャリア支援委員：1年次生を対象に、「なりたい看護師増を見つける」をテーマに、講義とグループワークの企画と実施を行った。学生委員会委員：チューターごとのオフィスアワーの調整を行った。実習委員会委員：感染症対策担当、インシデントレポート様式の改訂を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 看護師免許取得	1999年5月29日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. あびこ病院	2011年12月2013年3月	病棟師長として、住民の医療ニーズをふまえて亜急性期病床の運用に重点を置き、ベットコントロールを行った。 排泄の援助として訴えられない高齢者に特に留意し、褥瘡予防や快適な状況で過ごせるように見直しを行った。 看護必要度の根拠を明確にする方法の一つとして必要度評価基準の導入にむけ、看護師を対象に勉強会を行い、正しく点数化できるようにした。看護必要度評価者・院内指導者資格を取得した。
2. 岡記念病院	2010年9月2011年12月	管理職業務 病棟師長・看護部長として、看護師の統括や病院運営に携わった。看護基準を15：1から13：1に引き上げ、看護職の増員を図った。 看護師・看護助手の教育に力を入れ、看護ケアの質の向上を行った。 PDCAサイクルを活用し、業務の改善を図った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
3. 日野病院	2009年7月2010年9月	外来師長・訪問看護ステーションの管理者として業務を行うとともに、在宅訪問看護の実践にもあたった。
4. たかまつこどもクリニック	2008年10月2009年6月	小児科クリニックの開業準備 看護の立場から診療環境の整備、適切な人材の確保や配置について検討した。 開業後は師長として、職員の育成や、業務の調整などを行い、働きやすい職場作りを行った。
5. 大阪府立呼吸器アレルギー医療センター	2005年4月2008年9月	院内の医療安全対策委員として活動した。
6. 大阪府立急性期・総合医療センター	1989年4月2005年3月	院内の看護部教育委員としての活動 感染対策リンクナースや褥瘡・ストーマケアの委員として、看護師を対象に勉強会を企画し、講師も務めた。また、ストーマ外来担当として、継続看護を実施した。 患者の立場に立った看護の提供を目標とした看護部の理念を基に、啓蒙活動や業務の見直しを行った。 クリニカルパス委員として、泌尿器科疾患の全ての術式のクリニカルパスを作成し、医療、看護の質の向上を図った。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 地域包括支援センターの看護師による閉じこもり高齢者への介入内容	単	2018年2月	武庫川女子大学大学院看護学研究科修士論文	地域包括支援センターの看護師が行っている、閉じこもり高齢者をサービスにつなげるための介入内容を明らかにすることを目的とした。地域包括支援センターの看護師9名にインタビューを行い、質的記述的に分析を行った。閉じこもり高齢者をサービスにつなげるために、対象者・家族・地域に介入した内容と特徴が明らかになった。地域包括支援センターの看護師が、閉じこもり高齢者をサービスにつなげるためには、対象者、家族、地域に対し、それぞれの介入の特徴をふまえて、対象者に対する直接的な介入だけではなく、対象者を取り巻く家族や地域住民、関係機関の専門職にも介入することが必要であった。また、対象者と家族や地域をつなぐために、看護師が調整する役割を担っていた。さらに、対象者、家族、地域に対し、看護師としての知識や経験を活用することが効果的であることが示唆された
3 学術論文				
1. 地域包括支援センターの看護師による閉じこもり高齢者の家族に対する介入内容(査読付)	共	2020年4月14日	第50回日本看護学会論文集 在宅看護、51-54	地域包括支援センター看護師が閉じこもり高齢者の家族に対し、どのような介入をおこなったかを明らかにすることを目的とし、インタビュー内容を質的記述的に分析した。その結果、地域包括支援センターの看護師は、①家族の協力を引き出し、②家族が疾患に関する理解を深め、③家族の介護負担を軽減する関わりを行っていることが明らかとなった。 共著者：松山美恵子、横島啓子、徳重あつ子、杉浦圭子、岩崎幸恵
2. 看護学生が学びを得て看護師国家試験に役立つと認識した実習の体験(査読付)	共	2019年4月	日本医学看護学教育学会誌、第28号・No. 1、37-44	看護学生が臨地実習で学びを得て看護師国家試験に役立つと認識した体験を明らかにすることを目的とした。4年制大学看護学部看護学科の卒業見込みがある4年次生で、在宅看護学領域の統合実習を履修した男性1名、女性6名に半構造化インタビューを行い質的帰納的に分析した。看護学生が国家試験に役立つと認識した実習の体験は【実際の対象者が利用する制度や施設の根拠法令を理解する体験】【地域包括ケアに関する具体的な援助について実際に通して理解しイメージ化する学習】【深く知ることにより理解したことが国家試験の勉強につながった体験】の3つのカテゴリが抽出された。実習のあらゆることを丁寧に結び付けて深く理解することができるように指導することで、実習の学びが臨床につながると考えられた。学生が国家試験に対応できる深い学びを得るためには、個別の事例を通して根拠法令、制度、疾患、看護、社会資源の利用と実際に丁寧に結び付けてイメージ化し、実感を得ることを意識した指導をする必要がある。 共著者：藤田?子、瀬川睦子、松山美恵子
3. 地域包括支援センターの看護師による閉じこもり高齢者への介入内容(査読付)	共	2019年2月5日	第49回日本看護学会論文集 在宅看護、19-22	閉じこもり高齢者が何らかの支援の利用に至ったプロセスを明らかにするために、地域包括支援センター看護師がどのような介入をおこなったか検討することを目的とし、インタビュー内容を質的記述的に

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
4. 気管支喘息発作時の排痰におけるスクイージング効果の検討	共	2008年11月	日本小児アレルギー学会誌 第22巻第3号363-368, 2008	分析した。その結果、地域包括支援センターの看護師は、①定期的に継続して訪問し、対象者のニーズをつかみ信頼関係を形成し、②看護師としての知識や技術を活用しながら、心身の状態から必要なサービスを提案し、継続した関係性への支援をおこなうことで、閉じこもり高齢者がサービスを含めた支援を受けることができるように介入していたことが明らかとなった。 共著者： <u>桧山美恵子</u> 、横島啓子、徳重あつ子 気管支喘息発作時におけるスクイージングの効果をピークフロー値とSpo2 値、痰を喀出できた児の割合から検証を行った。その結果、スクイージングは気管支喘息発作軽減の援助として効果があることが示唆された。 共著者：田中謙好、中村直美、 <u>米谷美恵子</u> 、村上照代、堀江淳、亀田誠、土井悟
5. 前立腺全摘除術汎用パス導入とその評価一	共	2003年10月	日本クリニカルパス学会誌 第5巻第2号420	前立腺全摘除術のパスを作成・使用し、発生したバリエーションを調査した。バリエーションの内容から、前立腺全摘除術汎用パスの評価を行った。 共著者：山本陽子、 <u>米谷美恵子</u> 、伊藤貴子、弥武美紀子、緒方規子
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 回想を引き出すための認知症高齢者との会話の検討	共	2020年9月28日	日本看護研究学会 第46回学術集会	徳重あつ子、横島啓子、杉浦圭子、岩崎幸恵、 <u>桧山美恵子</u>
2. Social and psychological factors associated to preference of solitude for older adults living alone in Japan	共	2020年9月	国際看護師協会 (ICN)	We aimed to investigate social and psychological factors associated preference of solitude which relate to social isolation and loneliness for older adults living alone. The subjects were 294 older adults (over 65 years) in living alone in largish housing complex. The mean age of participants was 77.3 years (Range .65-93). 73 percent was female. The high total score of preference of solitude was shown in male, younger ages and appearance social isolation (not go outside for once or more a week). The people responded that prefer to think alone rather than enjoy talking with others showed lower IADL score, high loneliness and none of support of caregiving, domestic duties, consultation about health and financial matters.
3. 小児救急電話相談（#8000）における電話相談員の職務満足度を構成する概念の検討	共	2020年11月	第67回小児保健協会学術集会	小児救急電話相談（#8000）に携わる相談員の職務満足度を構成する概念を明らかにし、質の高い仕事が発揮される職務環境の在り方および向上への示唆を得ることを目的とし、アンケート用紙を用いて自由記述による回答を質的記述的に分析した。結果、相談員の職務満足度の概念は、仕事に対するやりがいや誇り、使命感などからなる〈仕事に対する肯定的感情〉〈仕事の成果の確認〉〈#8000の在り方・存在意義〉と、専門性の発揮や良い相談を行うことに関する〈相談員としての自律〉〈充実して仕事ができる環境〉の5つのカテゴリーが抽出され、相談員が力を発揮し質の高い相談を行うためには、職務満足度の検討が有用であることが示唆された。 共著者：林文子、内海みよ子、 <u>桧山美恵子</u> 、宮下佳代子、木村静
4. 地域包括支援センターの看護師による閉じこもり高齢者の家族に対する介入内容	共	2019年9月14日	第50回日本看護学会在宅看護学術集会	閉じこもり高齢者の家族に対して地域包括支援センターの看護師が介入した内容を明らかにすることを目的とし、A市の地域包括支援センターの看護師9名に対しインタビューを行い、得られたデータから逐語録を作成し、質的記述的に分析した。その結果、地域包括支援センターの看護師は閉じこもり高齢者の家族に対し、月1回の訪問を平均1年間かけて、関係性を深めながら継続的に働きかけを行っていた。その中で、家族間の協力を促すために、家族に役割を依頼するなどの【家族が協力できるようなかわり】、認知症の対応方法を繰り返し伝えるなどの【家族が疾患に対する理解を深めるかわり】、介護から離れる時間を作るなど【家族の介護負担を軽減するかわり】の3つの大きな介入内容が明らかとなった。 共同発表者： <u>桧山美恵子</u> 、横島啓子、徳重あつ子、杉浦圭子、岩崎幸恵
5. 地域包括支援センターの看護師による閉じこもり高齢者への介入内	共	2018年7月	第49回日本看護学会在宅看護学術集会	修士論文で、地域包括支援センターの看護師による閉じこもり高齢者への支援を明らかにすることを目

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
容				
6. 実習体験に基づいた国試対策ともなる実習指導のあり方	共	2018年3月	第28回日本医学看護教育学会学術学会	的とした調査において、閉じこもり高齢者をサービスにつなげるために、高齢者に介入した内容と特徴が明らかとなった。 共同発表者：松山美恵子、横島啓子、徳重あつ子 看護学生が国家試験に役立ったと認識した実習での体験を明らかにすることで、国家試験対策を意識した実習指導を検討することを目的とした。実際に出会った療養者の状況や実習施設の概要から、制度や根拠法令に基づき理解して学んだ体験や援助や疾患について、学んだ体験が役立ったと感じており、個別の事例を通して医療的ケアなどの援助の実際のほか、根拠法令、制度、疾患を丁寧につなげて理解することが看護師国家試験に役立つことが示唆された。 共同発表者：藤田とも子、瀬川睦子、高橋篤信、岩下幸祐、松山美恵子
7. 気管支喘息発作時の排痰におけるスクイージング効果の検討	共	2008年5月	第5回日本小児アレルギー学会	気管支喘息発作時におけるスクイージングの効果をピークフロー値とSpo2 値、痰を喀出できた児の割合から検証を行った。その結果、スクイージングは気管支喘息発作軽減の援助として効果があることが示唆された。 共同発表者：田中謙好、中村直美、米谷美恵子、村上照代、堀江淳、亀田誠、土井悟
8. 前立腺全摘除術汎用パス導入とその評価	共	2003年11月	第4回日本クリニカルパス学会	前立腺全摘除術のパスを作成・使用し、発生したバリエーションを調査した。バリエーションの内容から、前立腺全摘除術汎用パスの評価を行った。 共同発表者：山本陽子、米谷美恵子、伊藤貴子、弥武美紀子、緒方規子
9. 腎移植後患者のストレス緩和への援助	共	2001年1月	第34回日本腎移植臨床研究会	腎移植後クリーンルームで不眠を訴える患者が多く、不眠の改善のためアロマセラピーを取り入れた。アンケート調査の結果、バルーンカテーテル抜去後の頻尿で最も不眠になっていることが分かった。そして、その時期にアロマセラピーを使用することが、最も効果的であり、睡眠補助の手段として活用できることが明らかとなった。 共同発表者：川崎尚子、豊田恭子、米谷美恵子、正成マツ子
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
1. 2017年10月	日本看護研究学会			
2. 2017年	日本医学看護学教育学会			
3. 2011年12月	大阪府小児救急電話相談員			